

令和4年度 全国学力・学習状況調査

～町立小中学校の結果の概要～

この調査の目的は、全国小学6年生・中学3年生の児童・生徒の学力・学習状況調査を把握し、課題の検証を通して改善にいかすためのものです。

1. 調査結果の取り扱いについて

- (1) この調査は、序列化や競争を目的とするものではありません。
- (2) この調査で測定できる学力は、特定の一部であり、学校の教育活動の一側面です。

2. 小・中学校の調査結果の概要

【学力に関して】

(1) 小学校

令和4年度は、国語・算数・理科の3教科の調査となりました。3教科とも全国平均を下回りました。大阪府平均と比べると国語では上回り、算数・理科では同程度となりました。

国語では、「読むこと」に課題が見られ、出題形式としては「記述式」を苦手としていることが分かりました。一方、「言葉の使い方に関する事項」では全国を上回りました。特に、漢字を文中で正しく使う問題では全国を15ポイント以上も上回る結果が出ています。

算数では、「数と計算」「データの活用」では全国を下回りましたが、「図形」「変化と関係」では上回りました。また、「思考・判断・表現」では全国を上回る結果となり、「記述式」の問題においても全国を上回っています。「記述式」の問題では、求め方と答えを記述したり、図形の構成の仕方について考察し記述したりする正答率が高くなっています。

理科は、全国・府を下回る結果となりましたが、実験器具の理解など知識・技能の定着が見られました。

(2) 中学校

町内1校のため平均正答率の数値は公表しません。

結果の概要については、国語・理科は、全国・府を下回りました。数学については全国・府より高い結果となりました。

国語では「書くこと」に課題があり、特に「記述式」の問題となると苦手意識が見られます。一方、「話すこと・聞くこと」においては府よりも高い水準となっており、聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する問題では、全国より5ポイント以上も上回っています。

数学では、「図形」「データの活用」の領域で全国・府を下回りましたが、「数と式」「関数」では全国・府を上回りました。特に、素数の積、連立二元一次方程式、表やグラフからの必要な情報の読み取りでは、全国・府を大きく上回りました。

理科では、「地球」を柱とする領域、特に気象に関わることでの正答率が全国・府と同程度でした。

【学力状況について】

児童・生徒アンケートの結果は、全国・府とはほぼ同等の結果でした。以下に示すものは、河南町として大切にしていきたい点です。

- (1) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」との回答が小学校で8割以上、中学校で9割以上でした。今後も児童・生徒の良いところを認め、それを伝えることで自尊心を高めていきたいと思います。
- (2) 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」との回答が小学校・中学校ともに8割以上でした。今後も児童・生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりに取り組んでいきます。

3. 課題解決のために

- (1) 授業規律をはじめ、学校生活における規範意識をさらに高めるように努めます。
- (2) 基礎・基本を大切にしつつ、児童・生徒が互いに高め合える魅力のある授業づくりに取り組みます。
- (3) 読解力をはじめ、言語活動を通して、ことばの力をさらに高められる授業づくりに取り組みます。

※日々の教育活動実施にあたり、今後とも保護者、地域の方々のご理解・ご協力をいただきながら取り組んでいきます。

担当課：河南町教育委員会事務局 教・育部 教育課 指導係

